

卒業証書授与式 校長式辞

校長 上野 昌弘

名残雪 たまゆらのときを惜しみつつ

潮もかなひぬ いざ漕ぎいでな

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんは、高志中等教育学校の新たな伝統を築くべく、創意工夫し、果敢に挑戦し、後輩たちに確かな指針を示してくれました。

G20新潟農業大臣会合においては、チームワークよく、水問題に着目した点滴灌漑や先進国と新興国とがタッグを組んで取組む農業オリンピックなど斬新な提言をしました。

また、Classiのアンケート機能を利用したスマホのルールづくり、哲学対話の手法の導入のきっかけを作り、SDGsに着目した生徒会活動の方針を示し、生徒会役員の任期の見直し、規約を改正するなど、生徒会活動、学校生活の改革の基盤を整えてくれました。

新型コロナウイルス感染拡大により休校から一年たつ今も、いまだその終息はみえず、社会は大きな混乱と不安の中にあります。そんな中、みなさんが後輩へと託したSDGsの視点は、これからの世界のかたちを示すものであり、ポスト・コロナの世界のみちしるべとなるものです。

日本の隣国である台湾は、早い段階から徹底した感染防止対策を行い、被害を最小限に食い止めてきました。そのリーダーシップをとっているのが、台湾の最年少デジタル大臣であるオードリー・タンさんです。彼は、昨年末、日本の若者に向けて新しい時代、世界を構築するためには、格差、ジェンダー、正しさ、お金等、今ある当たり前や既成の枠組みから自由になることが必要だとメッセージを送っています。

たとえば、不平等や格差に怒りを感じ、不平等から自由になるための二つのステップを提案しています。

まずは、「自分にたくさん質問すること」。「習慣を変えることになるのは何か?」「問題を共有するにはどうしたらよいだろうか」自ら問い、自分自身に立ち返ることこそが、社会変革の第一歩だとしています。

次にすべきことは「広げる行動」だといいます。タン氏は、「アイスチャレンジ」「アイスバケツ」という「筋萎縮性側索硬化症(ALS)」の治療研究費用を求めるために始まったSNSでの取り組み、これは頭から氷水を被るか、寄付をするかという二者択一のゲームのような取組ですが、これを例にあげ、「憤りや怒り」から「つながりと喜び」を生み出すことができれば、それが変化につながるといっています。単独で行動するのではなく、「ハッシュタグ」という「声」を出し、広げ、巻き込んでいくことが大切だといいます。

世界を形づくるシステムや大きな力、大きな物語の前で、個人は、あまりにもちっぽけで、無力であると思えるかもしれません。しかしながら、歴史や文化や政治など、大きな物語は、個人の、あなた自身の小さな物語とつながっており、それらは、必ず、誰かの小さな物語から始まったものです。それは、あなたが、世界を変えるきっかけとなることができるということでもあります。

高志中等教育学校での6年間の学びは、この世界という大きな物語を学び、読み解き、そこに生きる力を、変えるための力を培うものでした。そして、また、自分を知るための時間、あなた自身の物語を紡ぎ、語る力を養う時間であったと思います。

あなたは何に打ち込んできたのか、何が好きで、何が苦手で、どんなことに「わくわく」と心をときめかせ、何をしてきたのか、何に立ち向かい、何から逃げようとしてきたのか、そして、結局、自分とは何なのか？

世界を変えるためには、「声」をあげなくてはならない、行動を広げ、巻き込まなくてはならない。大切なのは、その「声」が、あなた自身のものであることです。

オードリー・タンさんが、まさに世界を変える力を発揮しているのは、「自分自身に立ち返る」ことを大切にしている、自分の物語をしっかりと語ることができるからです。タン氏は、14歳で中学を自主退学し、旅に出ました。台湾の山岳地帯を旅して、様々な民族と出会い、異文化に触れ、多様な価値観と向き合います。また、トランスジェンダーである自身のセクシャリティについて見つめ、自分は、知性（サピオ）が好きだから、「サピオセクシャル」であると再定義しました。既成の枠ではなく、新たな枠組み、言葉を作り、自分を語っているのです。

みなさんは、今、どういう言葉で自分自身の物語を語るでしょうか？

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。目まぐるしく変わる社会の変化、それ以上に、成長著しい我が子の体と心、そして、大切な卒業まで一年間、コロナ禍により日常の変化、生徒以上に、不安と焦りの日々があったかと思います。そんな中であって我が子に寄り添い、見守り続けた保護者のみなさまこそ、それぞれに語るべき物語があったことと思います。そのご労苦と愛情に心よりからの敬意と感謝の気持ちを表したいと思います。

どうか今後とも、ご家族の永久の愛情をもって豊かな人生へと導いてくださいますようお願い申し上げます。

ノーベル化学賞を受賞した野依良治さんは、持続可能な世界の実現には、「多様な文化の尊重」が不可欠であるといいます。彼のいう「文化」とは、言語・情緒・論理、そして、科学だといいます。科学は一つの真理を求めるが、言語は多様であり、情緒もまた限りなくあ

ります。「科学だけで人は生きていけない。文化に根差す思索がなければ未来を思い描くことすらできない」といいます。

言語や情緒と深くかかわる文学や芸術、美というものは、世界を直接変えることはできません。しかしながら、世界を変えることのできる人の心や気持ちを変えることができるのです。自分を語る力とは、論理やレトリックではありません。物事の美醜を見極め、人間の、人生の真実を求めるところに、その本質があるのです。

「志」とは、世界、社会という大きな物語と、あなた自身のささやかだけど、身近で、確かに、美しく生々しい物語とが交錯するところに生まれるのです。

あなたは、自分の物語を紡ぐときに、どんなエピソードを思い起こすでしょうか？ ちっぽけなものでもかまいません。その意味と意義と価値を見出すのはあなた自身です。みなさんが出会った多くの人たち、重ねてきた経験は、誰かが評価し、価値づけるものではありません。あなた自身が意味づけ価値づけ、物語として紡いでいくのです。

下校時、校長室の窓をたたき、「ヴァイオレットエヴァーガーデンが映画化されますよ」と嬉しそうに教えてくれた京アニが好きな生徒がいたこと、教科書をなぞるだけの授業などつまらないと抗議しにきた生徒がいたこと、防災に強いまちづくりという志をプレゼンテーション大会に応募した生徒がいたこと、小さなエピソードが私自身の中にも刻まれています。誰かとふれあい、つながり、語り合えば、そこにかすかな響きが生まれます。かけがえのない宝石のような一人ひとりが触れ合い生み出すその音や光。みなさんは、そんなかけがえのないたまゆらのときを過ごしてきたのです。

巣立ちの日 抱けよ高き志 たまゆらのとき未来（あす）に紡ぎて

あなたの物語が、あなたの「声」が、多くの人々の共感と行動につながり、よりよく世界を変える大きな物語を紡ぎだしてくことを願い、式辞といたします。